

# 令和5年度事業計画

## 1 基本方針

いまだ厳しい経営環境にある造園業界ではあるが、自然の生態系や植物の生育に配慮し、「快適で潤いのある生活空間の形成と美しい環境緑化づくり」を進めていくことができる技術・技能を有する専門家集団として、みどりを生かした都市空間を形成し地球環境を守ることにより、地域の皆さんの「安全で潤いのある生活空間づくり」に貢献していくことが私どもの責務であると考えている。

このような状況を踏まえ、福岡県造園協会は、公益社団法人として設立目的である「環境緑化に係る造園技術の向上と普及を促進し、安全、安心の社会づくりに寄与する」ため、先人達が守ってきた自然、風土、景観を大切にするという趣旨を尊重し、次の事業を実施していく。

具体的には、「普及啓発事業」、「環境緑化事業」、「森林づくり事業」、「研究指導事業」の4つの分野を柱に、公益目的事業を積極的に展開し、公益社団法人としての使命を果たすとともに、事業に係る財源の確保に努めていくものとする。

また、ワンヘルスの実践に取り組むとともに、当協会の活動を通してSDGs（持続可能な開発目標）の達成、持続可能な社会の実現に貢献していくこととする。

なお、事業推進に当たっては、引き続き感染症対策に留意するものとする。

## 2 事業活動に関する事項

### (1) 公益目的事業

#### ①普及啓発事業

造園技術は、公園の整備や管理にとどまらず、街路樹の剪定、多自然川づくり、屋上緑化、壁面緑化等で地域の環境緑化や自然の景観づくりに貢献している。

造園に携わる者は、地域の気候や風土に合った樹木を選択して育成し、自然環境の保全に取り組んできたところである。

このため当協会では、広報誌「エバーグリーン」を年2回発行し、活動内容の紹介や研修会等の案内を通して、造園技術が果たす役割の普及啓発及び環境緑化の推進に努めている。

編集を担当する当協会の広報委員会は、造園技能士、植栽基盤診断士、街路樹診断士等、専門資格を有する会員で構成され、初心者から経験者まで幅広い層に受け入れられるように内容を吟味している。

広報誌は、令和5年新春号で51号を数え、九州各県、県庁関係課、県出先機関、県内市町村、造園学会等に配布している。

・令和5年度 A4版、夏季号 2000部、新春号 2000部

#### ②環境緑化事業

環境緑化に関する知識の普及を図るため、老若男女、初心者から経験者まで幅広い層を参加対象とした研修会、講演会等を開催する。

a) サクラ再生ボランティア

県内各地のサクラは、戦後復興のシンボルとして植栽されたが、ソメイヨシノの寿命は60年程度であり、樹勢が衰退している状況にある。

このため、樹勢が著しく衰退しているものについて、伐採及び苗木の植栽ボランティアを実施し、サクラの名所の再生を図る。

・実施個所、時期未定

b) 講演会の開催

外部講師を招いて環境緑化に関する講演会を実施する。

c) 環境緑化に対する相談の受付と回答

樹木の植栽、剪定及び伐採方法並びにそれらの時期などに関する相談を、電話やメールで受け付け、回答している。

なお、現地確認の依頼があった場合には、当協会の技術委員会が対応することとしている。

### ③森林づくり事業

a) 森林・里山再生ボランティア事業

「安全、安心の社会づくりに寄与する」ため、荒廃した森林や里山の再生事業を実施することで、地域の自然、風土、景観を守ることに努めている。

令和5年度は、県内2カ所で地元小学生を対象とした森林環境教育やボランティア植樹を行う。

・森林つつじ公園（久留米市）

（山川小学校5年生、令和5年9月15日（金）、参加者100名を予定）

・実施個所、時期未定

（県内の小学校、参加者30名程度を予定）

b) サクラ再生ボランティア（再掲）

県内各地に植栽されているサクラで樹勢が著しく衰退しているものについて、伐採及び苗木の植栽ボランティアを実施し、サクラの名所の再生を図る。

・実施個所、時期未定

### ④研究指導事業

a) 県内の街路樹や公園の樹木の調査、維持管理研修

県内の街路樹や公園の樹木について、当協会の樹木医や植栽基盤診断士等の専門家が、樹木の状態や土壌についての調査、維持管理についての研修を実施する。

b) 次世代緑化人研究会（平成17年12月設立）

次代の造園業界を担う広い視野と行動力のある人材を育成するため実施する造園技術研修会や植栽ボランティアへの参加、先進的造園事例の視察等へ助成する。

c) 松枯れ防除対策技術研修会

北部九州一帯の海岸線の松枯れは一時期ほどではなくなったものの、まだまだ発生しており、海岸線付近の住民生活に影響がみられるため、当協会の樹木医等を講師として、松枯れ被害の状況と防除技術について、行政機関、関係団体、一般県民を対象に研修会を実施する。

d) 河川石積み技術研究会（令和元年9月設立）

河川工事の多自然川づくりにおける石積み工事を施工できる技術者が不足し、河川工事に支障が出ている。

そこで、石積み工法の技術者養成に取り組むため、現地研修会や講習会を実施する。

e) 福岡グリーンインフラ研究会（令和2年4月設立）

地球温暖化により自然災害が激甚化する中、都市の豪雨対策とまちづくりを両立させる、造園技術を活用した分散型水管理を基本とするグリーンインフラについて、当協会、（一社）日本造園建設業協会福岡県支部、（一社）福岡市造園建設業協会、（一社）北九州緑化協会で研究会を設立した。

引き続き、情報収集・共有・発信及び啓発並びに政策の企画・提案を共催する。

## （2）収益事業等

### ①公園管理技術協力事業

国営海の中道海浜公園の植物管理業務を受注している共同企業体に対し、それまで当協会がこの業務に関わってきた経験を踏まえ技術協力を行なう。

### ②その他の事業

「2024年 緑のつどい」

- ・共催 （一社）日本造園建設業協会福岡県支部
- （公社）福岡県造園協会
- （一社）福岡市造園建設業協会

## 3 関係団体との連携等

- （1）九州各県造園協会連合会、九州緑化協議会等との連携
- （2）県知事及び県出先機関等への要望・提言活動
- （3）（公社）造園学会との連携

## 4 協賛事業の推進

- （1）福岡県植樹祭への参加
- （2）関係機関、団体等の主催する各種イベント等への後援、参加